

第2章 食品製造業の生産動向

利用者のために

食品製造業 総合

- 1 畜産食料品
- 2 水産食料品
- 3 農産食料品
- 4 製穀粉・同加工品
- 5 食用油・同加工品
- 6 砂糖
- 7 調味料
- 8 飲料
- 9 菓子
- 10 調理食品
- 11 酒類

利用者のために

1 食品製造業の生産、出荷、在庫調査の対象

(1) 調査の対象

食品製造業の生産、出荷、在庫調査は、標本調査及び既存統計資料の収集から構成されている。標本調査は、食品需給研究センターがメール等の調査により実施したものである。既存統計資料は、農林水産省や関係団体等で実施された調査統計資料を収集し、活用したものである。

調査対象部門と品目は下表のとおりである。

	本調査の対象品目 (標本調査)	既存統計資料の収集品目 (農林水産省、業界団体、国税庁等)
1 畜産食料品	はっ酵乳・乳酸菌飲料	食肉加工品、牛乳・乳製品、食肉缶・びん詰
2 水産食料品	水産練製品	水産缶・びん詰
3 農産食料品	野菜・果実漬物 乾燥野菜	農産缶・びん詰、トマト加工品
4 製穀粉・同加工品	製粉・穀粉、パン類、めん類、マカロニ類	プレミックス、パン粉、でん粉
5 食用油・同加工品		植物油脂・加工油脂
6 砂糖		精製糖
7 調味料	味噌	しょうゆ、マヨネーズ、ドレッシング類
8 飲料	コーヒー、紅茶、緑茶、ウーロン茶、麦茶、その他の茶系飲料	炭酸飲料、果実飲料、トマト飲料
9 菓子	ビスケット、米菓	
10 調理食品	加工米飯、包装もち	調理缶・びん詰、レトルト食品
11 酒類		清酒、合成清酒、みりん、焼酎、ビール 果実酒、リキュール、雑酒
12 その他の食品		植物油粕

(2) 標本調査の概要

調査対象	調査対象企業数 605 社
調査時期	平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月
調査方法	郵送・メール・電話による聞き取り
回答企業数	295 社（回答率約 48.8 %）

2 食品製造業の生産指数、出荷指数、在庫指数の作成基準

(1) 食品製造業生産指数

食品製造業生産指数のウェイトについては、平成 17 年産業連関表の食品製造業の生産額を基準として作成している。

産業連関表は、品目が詳細に掲載されているため、生産額ウェイトに適していることから生産指数推計に採用している。食品製造業の部門の区分も産業連関表を基準としている。

ウェイトは、各部門別、業種別、品目別のウェイトを算出するが、調査資料のない品目のウェイトは、原則として、調査品目にふくらしを行い、部門及び全体の推計を行う（ふくらしウェイト方式）。

指数算出時点においてデータがすべて揃わない場合は、前年と同水準であるとする仮定のもと、該当する欠損値に前年の数値を用いて指数を算出している。

なお、平成 23 年から、調査を中止した品目については、平成 17 年に遡り採用品目から除外した。

(2) 食品製造業出荷指数

食品製造業出荷指数のウェイトについては、平成 17 年工業統計表の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

(3) 食品製造業在庫指数

食品製造業在庫指数のウェイトについては、平成 17 年工業統計表の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

3 指数の計算方法

指数の計算方法は、次のとおり。

(1) 指数算式

指数計算は対象品目別に基準数量で比較月の生産量を除し、品目指数を計算し、次にこれらの品目指数を業種別、部門別、さらに総合につき品目ウェイトで加重平均する。

基準数量と品目ウェイトはあらかじめ算定し、固定しておくので、変化するのは月々の生産量のみである（ラスパイレス算式）。この指数算式は次のごとくである。

$$Q_t = \frac{\sum_{i=1}^n \frac{q_{ti}}{q_{0i}} w_{0i}}{\sum_{i=1}^n w_{0i}} \times 100.0$$

q : 生産量
 w : 生産額ウェイト
 i : 採用品目を示す添字
 0 : 基準時を示す添字
 t : 比較時を示す添字

生産指数の基準年は平成 17 年であり、基準数量は対象品目ごとの 17 年月平均生産数量

である。指数値は 17 年月平均の比例数である。出荷指数と在庫指数についても同様の指数算式で行う。

（２）指数改定

指数は、基準時から遠ざかるに従い新製品の登場、製品の品質変化、相対価格の変化等によって採用品目の代表性、ウェイト構成の妥当性が不安定になる。このため 5 年毎に基準時を移行し、改めて選定された採用品目と再計算されたウェイトによる改定基準を作成する必要がある。

（３）用語の解説

① 暫定値：各総合指数を推計する際、現在の使用データが速報値であり、今後確定値に変更されるデータについては、暫定値としている。

② 寄与度：他の内訳が変化しないとした場合に特定の内訳の変化が全体をどの程度の割合で変化させたかを表している。

$$\begin{aligned} \text{対前年増減寄与度} &= \text{各部門指数（当年指数－前年指数）} \times \text{ウェイト} \\ &\div \left(\text{総合指数（前年指数）} \times \text{ウェイト} \right) \times 100.0 \end{aligned}$$

③ 本報告書では上昇、低下、増加、減少の表現区分は次のようにしている。

前年並み	：	± 1 %未満
わずか	：	± 1 ～ 3 %未満
やや	：	± 3 ～ 6 %未満
かなりの程度	：	± 6 ～ 11 %未満
かなり大きく	：	± 11 ～ 16 %未満
大幅	：	± 16 %以上

食品製造業 総合

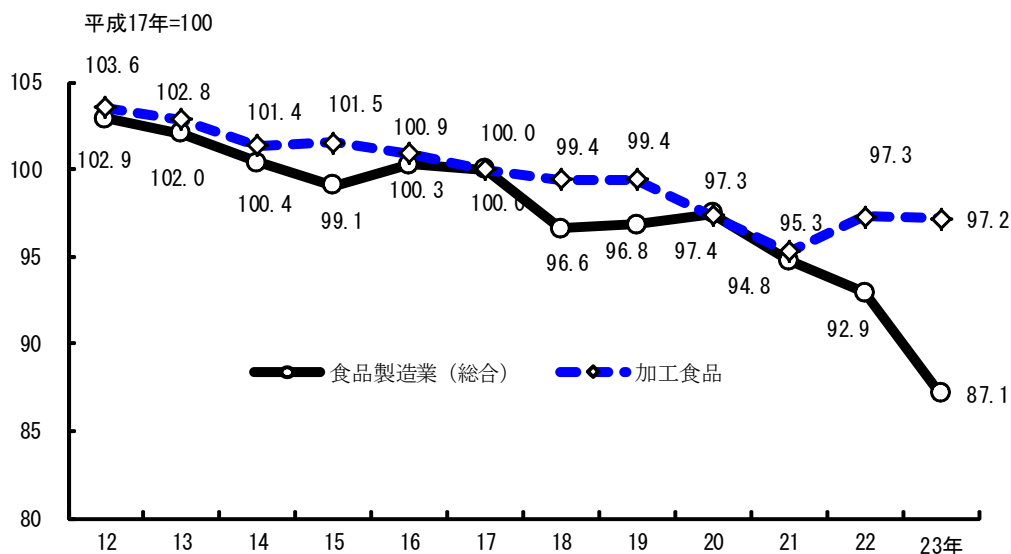
(1) 生産指数

平成23年の食品製造業（総合）の生産指数は87.1で、対前年比▲6.2%とかなりの程度低下

平成23年の食品製造業（総合）の生産指数（平成17年=100、暫定値）は87.1で、対前年比▲6.2%とかなりの程度低下した。また、飲料、酒類を除いた食品製造業（食品）の生産指数（平成17年=100、暫定値）は97.2で、対前年比▲0.1%と前年並みとなった。平成12年以降、低下傾向で推移しており、特に23年は落ち込みが大きい。近年の景気の低迷や東日本大震災の影響が要因と考えられる。特に、農産食料品、飲料、その他食品、酒類が全体を押し下げている。

分野別にみると、調理食品がかなり大きく、製穀粉・同加工品がわずかに上昇した。また、畜産食料品、食用油・同加工品、調味料、菓子は前年並みであった。一方、農産食料品、その他食品がかなりの程度低下し、酒類、砂糖はやや低下し、水産食料品、飲料がわずかに低下した。

図2-1 食品製造業生産指数の推移



注：食品製造業（食品）は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの（以下同様）。

図2-2 食品製造業の生産指数の対前年増減率、寄与度

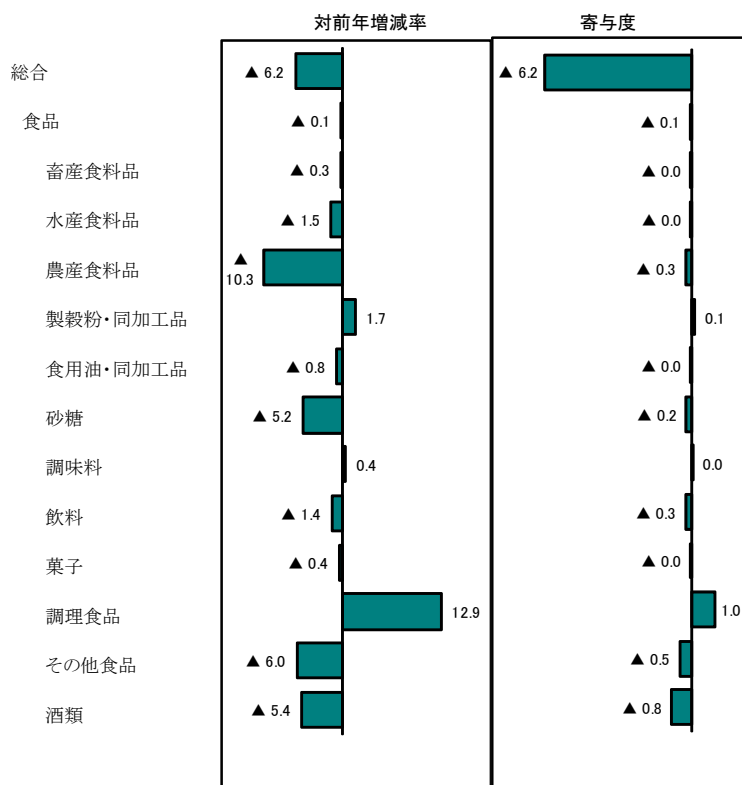


表 2-1 食品製造業の生産指数の推移

	ウェイト (17年)	指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 23/22年
		17年	20年	21年	22年	23年	17年	20年	21年	22年	23年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	97.4	94.8	92.9	87.1	▲ 0.3	0.6	▲ 2.7	▲ 2.0	▲ 6.2	▲ 6.2
食品製造業(食品)	6,448.0	100.0	97.3	95.3	97.3	97.2	▲ 0.9	▲ 2.1	▲ 2.1	2.1	▲ 0.1	▲ 0.1
畜産食料品	1,848.0	100.0	96.5	94.6	94.2	94.0	▲ 0.2	▲ 2.4	▲ 2.0	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 0.0
水産食料品	278.7	100.0	88.8	78.7	85.5	84.3	▲ 2.4	▲ 2.4	▲ 11.3	8.6	▲ 1.5	▲ 0.0
農産食料品	285.1	100.0	89.3	85.8	83.4	74.7	▲ 4.1	▲ 10.0	▲ 4.0	▲ 2.8	▲ 10.3	▲ 0.3
製穀粉・同加工品	593.6	100.0	94.4	94.0	94.3	95.8	▲ 2.4	▲ 2.8	▲ 0.5	0.3	1.7	0.1
食用油・同加工品	520.4	100.0	98.4	93.5	94.6	93.8	▲ 3.3	▲ 1.8	▲ 5.0	1.2	▲ 0.8	▲ 0.0
砂糖	417.9	100.0	100.1	96.9	95.6	90.7	▲ 1.8	0.7	▲ 3.2	▲ 1.3	▲ 5.2	▲ 0.2
調味料	93.4	100.0	97.3	97.3	95.6	96.0	0.3	▲ 2.6	0.0	▲ 1.8	0.4	0.0
飲料	1,975.8	100.0	96.6	89.3	93.5	92.2	2.7	▲ 2.7	▲ 7.6	4.8	▲ 1.4	▲ 0.3
菓子	900.1	100.0	110.8	112.0	110.6	110.2	3.0	5.9	1.1	▲ 1.2	▲ 0.4	▲ 0.0
調理食品	583.1	100.0	92.0	101.2	122.5	138.4	1.9	▲ 10.7	10.0	21.1	12.9	1.0
その他食品	927.9	100.0	94.3	85.4	86.8	81.6	▲ 3.4	▲ 2.4	▲ 9.5	1.7	▲ 6.0	▲ 0.5
酒類	1,576.1	100.0	98.9	99.7	93.5	88.5	▲ 2.6	0.0	0.8	▲ 6.3	▲ 5.4	▲ 0.8

(2) 出荷指数

平成23年の食品製造業（総合）の出荷指数は92.7で、対前年比▲0.7%と前年並み

平成23年の食品製造業（総合）の出荷指数（平成17年=100）は92.7で、対前年比▲0.7%と前年並みとなった。また、食品製造業（食品）の出荷指数（平成17年=100）は88.8で、対前年比▲0.9%と前年並みであった。特に、製穀粉・同加工品、飲料はプラスに寄与し、一方、畜産食料品、酒類はマイナスに寄与している。

分野別にみると、水産食料品、製穀粉・同加工品、飲料がわずかに上昇した。また、畜産食料品、菓子は前年並みであった。一方、農産食料品がかなりの程度低下し、砂糖、調理食品、酒類がやや低下し、食用油・同加工品、調味料、その他食品がわずかに低下した。

図2-3 食品製造業出荷指数の推移

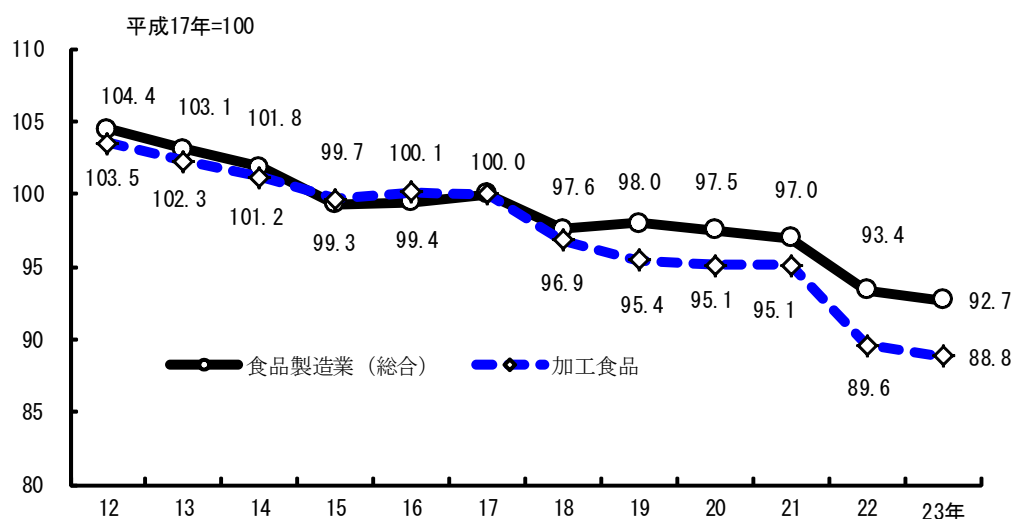


図2-4 食品製造業の出荷指数の対前年増減率、寄与度

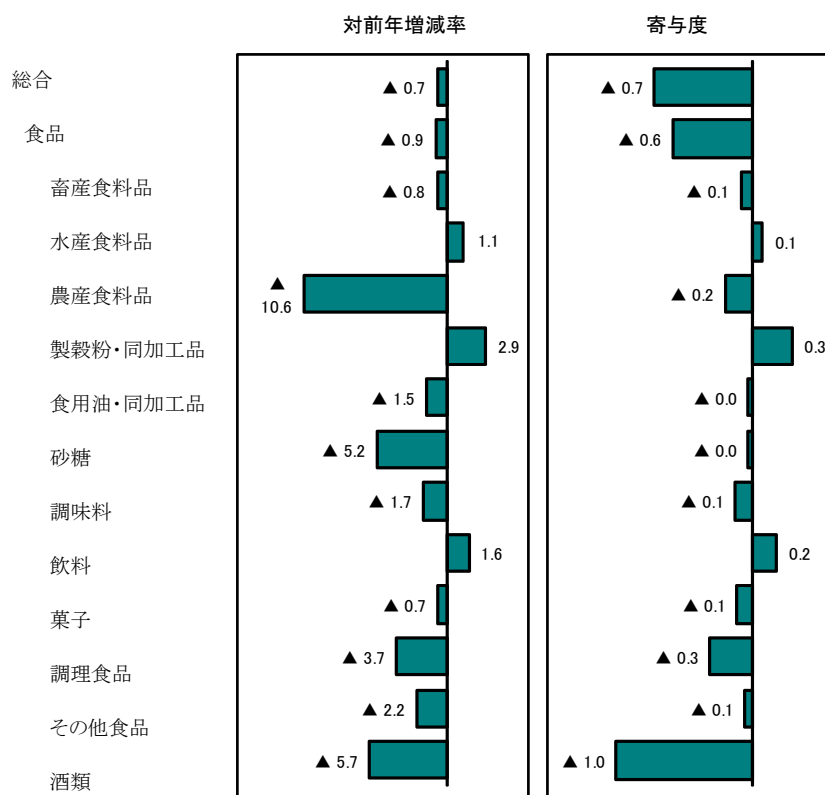


表 2-2 食品製造業の出荷指数の推移

	ウェイト (17年)	指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 23/22年
		17年	20年	21年	22年	23年	17年	20年	21年	22年	23年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	97.5	97.0	93.4	92.7	0.6	▲ 0.5	▲ 0.6	▲ 3.7	▲ 0.7	▲ 0.7
食品製造業(食品)	7,242.7	100.0	95.1	95.1	89.6	88.8	▲ 0.1	▲ 0.3	0.0	▲ 5.8	▲ 0.9	▲ 0.6
畜産食料品	1,123.9	100.0	99.1	100.0	98.5	97.7	▲ 0.9	▲ 2.1	1.0	▲ 1.6	▲ 0.8	▲ 0.1
水産食料品	1,121.6	100.0	76.3	80.7	56.9	57.5	▲ 2.6	▲ 3.6	5.7	▲ 29.5	1.1	0.1
農産食料品	280.6	100.0	94.2	89.9	65.0	58.1	▲ 3.3	0.2	▲ 4.6	▲ 27.6	▲ 10.6	▲ 0.2
製穀粉・同加工品	1,218.4	100.0	95.6	95.5	65.0	83.2	▲ 2.1	▲ 3.8	▲ 0.1	▲ 15.2	2.9	0.3
食用油・同加工品	214.7	100.0	94.5	88.1	87.7	86.4	2.3	0.5	▲ 6.7	▲ 0.4	▲ 1.5	▲ 0.0
砂糖	59.6	100.0	93.5	96.9	95.6	90.7	▲ 1.8	0.0	3.6	▲ 1.3	▲ 5.2	▲ 0.0
調味料	839.0	100.0	80.0	78.6	82.2	80.7	▲ 1.2	▲ 3.2	▲ 1.6	4.5	▲ 1.7	▲ 0.1
飲料	926.1	100.0	119.8	113.5	114.3	116.1	15.9	1.4	▲ 5.2	0.7	1.6	0.2
菓子	1,437.4	100.0	108.5	108.6	111.3	110.5	1.5	4.3	0.1	2.5	▲ 0.7	▲ 0.1
調理食品	698.0	100.0	107.8	107.3	116.0	111.7	8.0	4.2	▲ 0.4	8.0	▲ 3.7	▲ 0.3
その他食品	249.5	100.0	99.0	91.2	93.1	91.0	0.7	1.4	▲ 7.9	2.1	▲ 2.2	▲ 0.1
酒類	1,831.2	100.0	95.3	94.2	92.1	86.9	▲ 2.6	▲ 1.7	▲ 1.1	▲ 2.2	▲ 5.7	▲ 1.0

(3) 在庫指数

平成23年の食品製造業（総合）の在庫指数は106.7で、対前年比13.3%とかなり大きく増加

平成23年の食品製造業（総合）の在庫指数（平成17年=100）は106.7で、対前年比13.3%とかなり大きく増加した。また、食品製造業（食品）の在庫指数（平成17年=100）は106.9で、対前年比19.1%と大幅に上昇した。

分野別にみると、水産食料品、農産食料品、その他食品が大幅に上昇し、畜産食料品がかなり大きく上昇した。一方、飲料がかなり大きく低下し、食用油・同加工品がわずかに低下し、製穀粉・同加工品は前年並みとなった。

図2-5 食品製造業在庫指数の推移

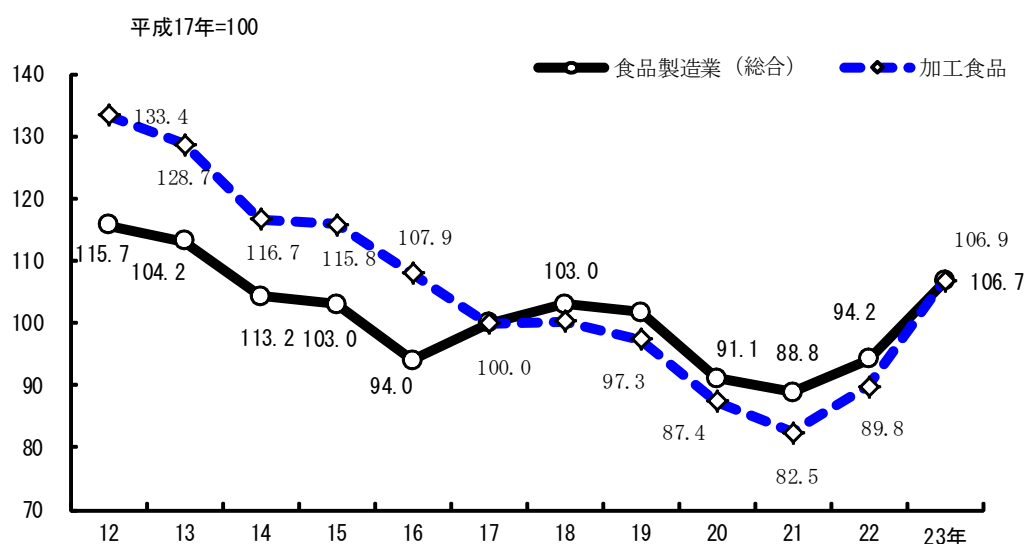


図2-6 食品製造業の在庫指数の対前年増減率、寄与度

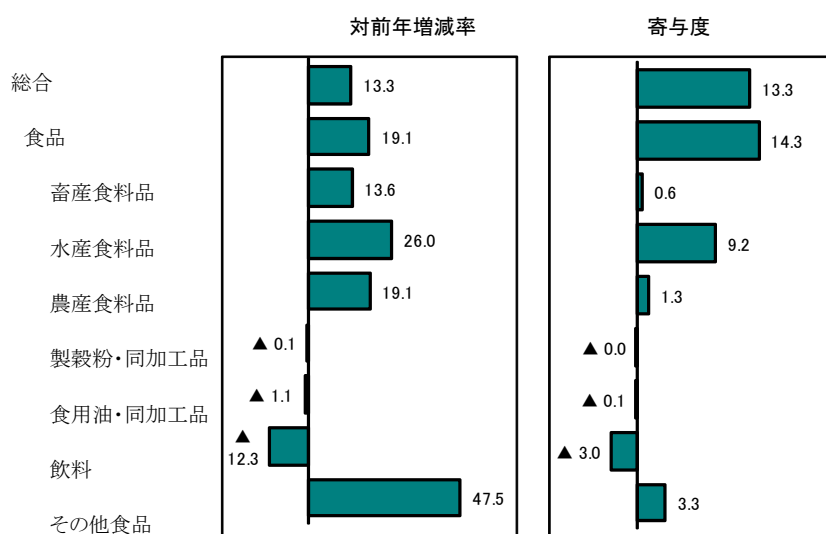


表 2-3 食品製造業の在庫指数の推移

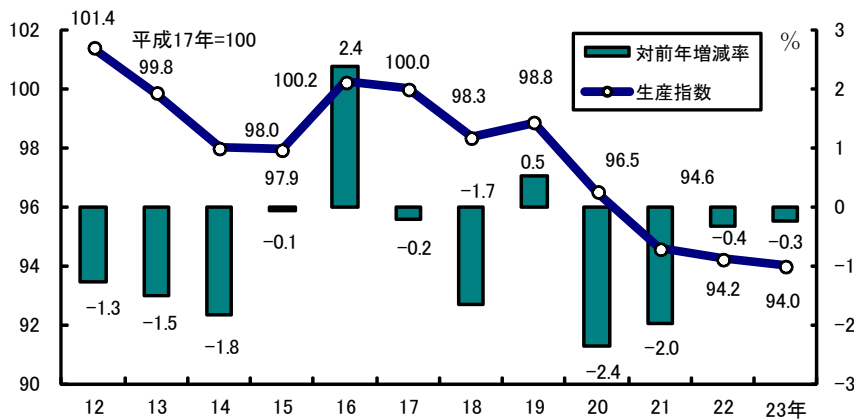
	ウェイト (17年)	指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 23/22年
		17年	20年	21年	22年	23年	17年	20年	21年	22年	23年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	91.1	88.8	94.2	106.7	6.4	▲ 10.4	▲ 2.6	6.1	13.3	13.3
食品製造業(食品)	7,874.2	100.0	87.4	82.5	89.8	106.9	▲ 7.4	▲ 10.2	▲ 5.6	8.8	19.1	14.3
畜産食料品	625.1	100.0	51.1	54.6	64.7	73.5	▲ 3.0	▲ 16.9	6.9	18.4	13.6	0.6
水産食料品	3,827.6	100.0	78.8	75.2	87.0	109.6	▲ 5.1	▲ 12.6	▲ 4.5	15.7	26.0	9.2
農産食料品	720.3	100.0	109.0	95.2	90.2	107.4	14.1	▲ 18.4	▲ 12.7	▲ 5.3	19.1	1.3
製穀粉・同加工品	1,317.4	100.0	85.3	93.3	95.3	95.3	1.0	▲ 21.8	9.3	2.2	▲ 0.1	▲ 0.0
食用油・同加工品	698.9	100.0	95.3	106.6	110.2	108.9	▲ 27.2	0.1	11.8	3.4	▲ 1.1	▲ 0.1
飲料	2,125.8	100.0	105.0	102.0	109.2	95.8	87.6	▲ 6.4	▲ 2.8	7.0	▲ 12.3	▲ 3.0
その他食品	684.9	100.0	142.4	90.0	96.1	141.8	▲ 26.1	27.9	▲ 36.8	6.7	47.5	3.3

1 畜産食料品

平成23年の畜産食料品の生産指数（平成17年=100、暫定値）は94.0で、対前年比▲0.3%と前年並みであった。平成15年までは低下していたが、平成16年は持ち直したものの、17年以降再び低下に転じたが、23年及び23年は前年並みで落ち着いた。

品目別にみると、乳飲料、アイスクリームがやや上昇し、食肉加工品、はっ酵乳・乳酸菌飲料がわずかに上昇した。一方、食肉缶・びん詰、乳製品がやや、飲用牛乳がわずかに低下した。

図2-7 畜産食料品の生産指数の推移



食肉加工品はわずかに増加、ハム類、ベーコン類、ソーセージ類すべてが前年を上回る

食肉加工品の生産量は51万3千トンで、対前年比2.0%とわずかに上昇した。内訳についてみると、ハム類の生産量は10万6千トンで対前年比2.5%とわずかに上昇、またベーコン類の生産量は8万4千トンで対前年比4.0%でやや上昇、ソーセージ類についても生産量は29万6千トンで対前年比1.2%でわずかに上昇した。

飲用牛乳は減少、乳飲料、はっ酵乳・乳酸菌飲料は増加

飲用牛乳の生産量は306万3千klで対前年比▲2.5%とわずかに減少した。また乳飲料は127万6千klで対前年比5.3%でやや増加、はっ酵乳・乳酸菌飲料も145万3千klで対前年比1.2%とわずかに増加した。

乳製品の生産指数はわずかに減少、バターの減少が影響

乳製品の生産指数は99.3で対前年比▲3.7%とやや減少した。内訳についてみると、バターの生産量は6万3千トンで対前年比▲14.6%とかなり大きく減少した。またチーズは13万1千トンで対前年比5.1%とやや増加した。アイスクリームも13万7千トンで対前年比5.0%とやや増加し、クリームも11万2千トンで対前年比4.8%とやや増加した。

図2-8 畜産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

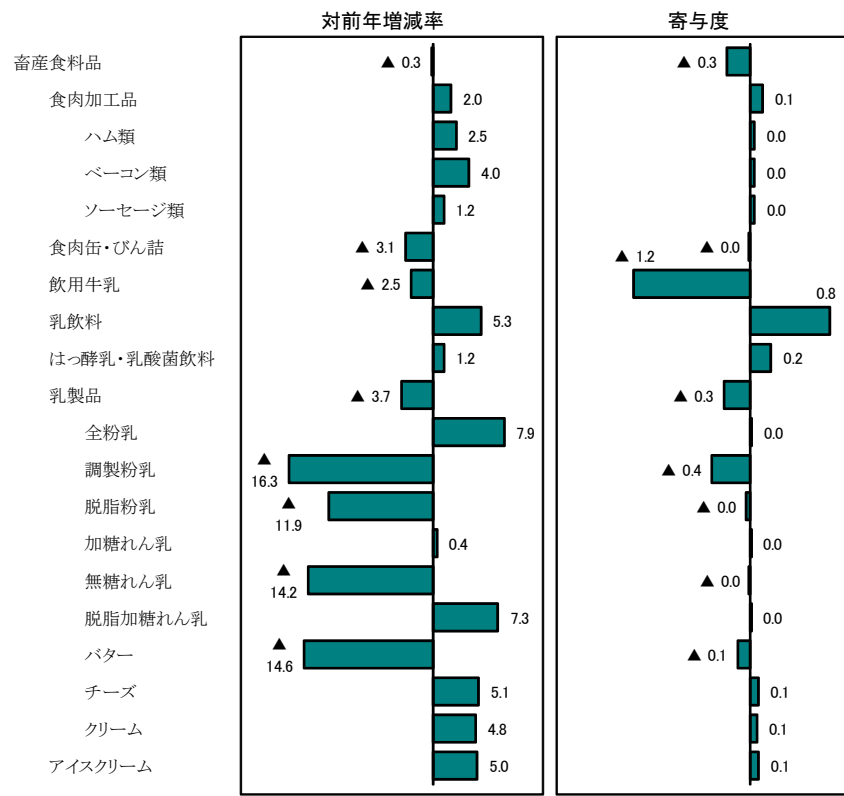


表 2-4 畜産食料品の品目別生産指数の推移

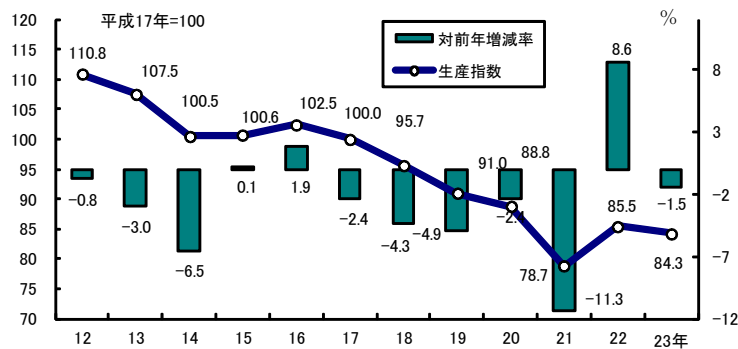
品 目	年 次 (17年)	生産指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 23/22年
		17年	20年	21年	22年	23年	17年	20年	21年	22年	23年	
畜産食料品	1,848.0	100.0	96.5	94.6	94.2	94.0	▲ 0.2	▲ 2.4	▲ 2.0	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 0.3
食肉加工品	112.8	100.0	98.7	103.1	102.1	104.2	▲ 0.3	1.6	4.5	▲ 0.9	2.0	0.1
ハム類	31.7	100.0	91.8	96.1	94.0	96.4	▲ 1.1	▲ 3.2	4.7	▲ 2.2	2.5	0.0
ベーコン類	17.5	100.0	102.3	106.5	106.0	110.2	1.3	▲ 0.9	4.1	▲ 0.5	4.0	0.0
ソーセージ類	63.6	100.0	101.1	105.6	105.1	106.4	▲ 3.2	4.7	4.5	▲ 0.5	1.2	0.0
食肉缶・びん詰	2.0	100.0	88.8	88.7	88.1	85.3	1.8	1.0	▲ 0.1	▲ 0.7	▲ 3.1	▲ 0.0
飲用牛乳	979.0	100.0	92.2	88.7	87.4	85.1	▲ 3.7	▲ 2.0	▲ 3.8	▲ 1.5	▲ 2.5	▲ 1.2
乳飲料	274.5	100.0	103.7	98.7	100.7	106.1	0.1	▲ 4.5	▲ 4.8	2.1	5.3	0.8
はっ酵乳・乳酸菌飲料	322.5	100.0	100.5	100.1	101.7	102.9	0.8	▲ 2.4	▲ 0.4	1.5	1.2	0.2
乳製品	130.9	100.0	99.4	105.6	103.1	99.3	2.6	▲ 2.4	6.2	▲ 2.3	▲ 3.7	▲ 0.3
全粉乳	3.3	100.0	94.2	87.4	92.1	99.4	▲ 3.8	▲ 3.5	▲ 7.2	5.5	7.9	0.0
調製粉乳	42.7	100.0	94.3	109.0	102.8	86.0	▲ 7.8	0.5	15.6	▲ 5.6	▲ 16.3	▲ 0.4
脱脂粉乳	7.3	100.0	84.5	89.5	83.2	73.3	2.4	▲ 8.4	5.9	▲ 7.0	▲ 11.9	▲ 0.0
加糖れん乳	7.8	100.0	107.6	114.3	105.7	106.1	▲ 0.5	▲ 1.2	6.2	▲ 7.5	0.4	0.0
無糖れん乳	0.3	100.0	81.6	75.8	76.8	65.9	▲ 24.5	▲ 1.5	▲ 7.1	1.3	▲ 14.2	▲ 0.0
脱脂加糖れん乳	1.5	100.0	90.5	78.8	66.3	71.1	19.0	▲ 4.0	▲ 12.9	▲ 15.9	7.3	0.0
バター	19.2	100.0	85.3	96.0	87.6	74.8	5.0	▲ 4.5	12.5	▲ 8.8	▲ 14.6	▲ 0.1
チーズ	28.0	100.0	96.5	99.6	101.9	107.1	▲ 1.6	▲ 5.5	3.2	2.3	5.1	0.1
クリーム	20.8	100.0	118.2	115.4	117.6	123.2	6.0	4.4	▲ 2.3	1.9	4.8	0.1
アイスクリーム	26.3	100.0	109.5	111.8	113.5	119.1	2.6	▲ 6.0	2.1	1.5	5.0	0.1

2 水産食料品

平成23年の水産食料品の生産指数（平成17年=100、暫定値）は84.3で、対前年比▲1.5%とわずかに低下した。近年の水産食料品の推移についてみると、20年以降原料価格の高騰の影響もあって17年に比べて大きく落ち込んで推移している。22年は一端回復したものの、23年は再び前年を下回った。特に、水産缶・びん詰めの低下が全体を押し下げている。

品目別にみると、水産練製品（ちくわかまぼこ類）がわずかに上昇した。一方、水産缶・びん詰がかなり大きく低下した。

図2-9 水産食料品の生産指数の推移



ちくわかまぼこ類はわずかに増加、水産缶・びん詰はかなり大きく減少

ちくわかまぼこ類の生産量は50万8千トンで、対前年比1.3%とわずかに増加した。水産缶・びん詰の生産量は9万トン3千トンで、対前年比▲15.4%とかなり大きく減少した。東日本大震災による影響と考えられる。

図2-10 水産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

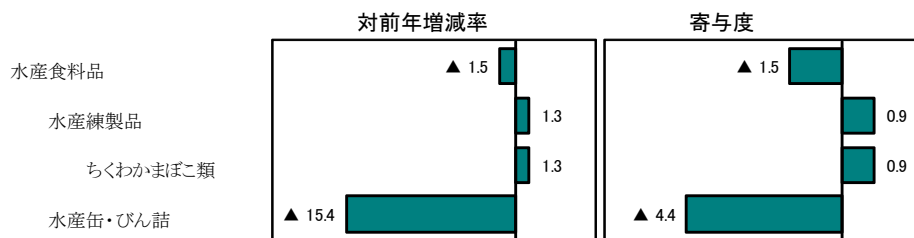


表 2-5 水産食料品の品目別生産指数の推移

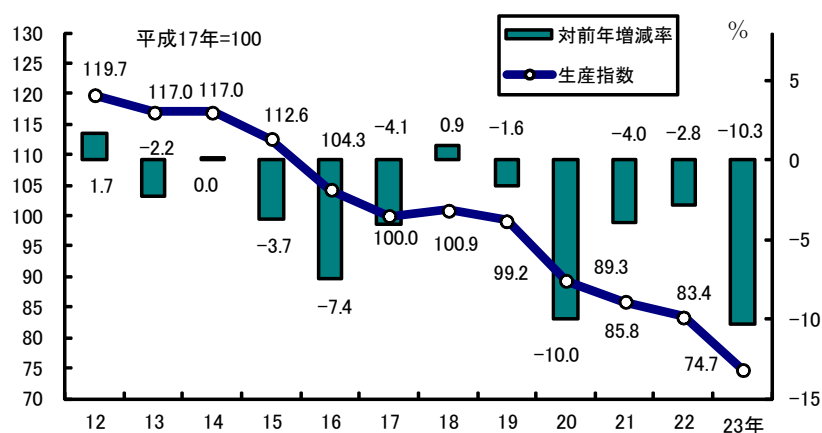
品目	年次 ウェイト (17年)	指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 23/22年
		17年	20年	21年	22年	23年	17年	20年	21年	22年	23年	
水産食料品	278.7	100.0	88.8	78.7	85.5	84.3	▲2.4	▲2.4	▲11.3	8.6	▲1.5	▲1.5
水産練製品	199.6	100.0	88.0	73.4	85.4	86.5	▲0.9	▲3.7	▲16.6	16.3	1.3	0.9
ちくわかまぼこ類	199.6	100.0	88.0	73.4	85.4	86.5	▲0.4	▲3.7	▲16.6	16.3	1.3	0.9
水産缶・びん詰	79.1	100.0	90.7	92.1	86.0	72.7	0.6	1.0	1.6	▲6.7	▲15.4	▲4.4

3 農産食料品

平成 23 年の農産食料品の生産指数（平成 17 年=100、暫定値）は 74.7 で、対前年比▲ 10.3 %とかなりの程度低下した。特に漬物の低下が全体を押し下げている。平成 17 年以降低下傾向で推移しており、特に 23 年は東日本大震災による原料供給不足や需要の低迷が要因とみられる。

品目別にみると、すべての品目が減少しており、乾燥野菜はかなり大きく、漬物、農産缶・びん詰はかなりの程度、トマト加工品がわずかに低下した。

図2-11 農産食料品の生産指数の推移



漬物はかなりの程度の減少

漬物の生産量は 78 万トンで、対前年比▲ 10.7 %とかなりの程度減少した。内訳についてみると、塩漬類の生産量は 11 万 1 千トンで対前年比▲ 17.0 %と大幅に減少、酢漬類の生産量は 10 万 2 千トンで対前年比 2.8 %とわずかに増加した。また、浅漬の生産量は 11 万 6 千トンで対前年比▲ 25.0 %と大幅に減少し、醤油漬は 35 万 1 千トンで対前年比▲ 2.1 %とわずかに減少した。

農産缶・びん詰もかなりの程度減少

農産缶・びん詰の生産量は 14 万 5 千トンで、対前年比▲ 8.3 %とかなりの程度減少した。内訳についてみると、野菜缶が 4 万 4 千トンで対前年比▲ 16.6 %と大幅に減少した。また果実缶は 6 万 8 千トンで対前年比▲ 1.8 %とわずかに減少、ジャムびんの生産量は 3 万 3 千トンで、対前年比▲ 8.4 %とかなりの程度減少した。

トマト加工品はわずかに減少

トマト加工品の生産量は 9 万 4 千トンで、対前年比▲ 1.5 %とわずかに減少した。トマトケチャップ、トマトピューレともに前年を下回り、全体ではわずかに減少した。

図2-12 農産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

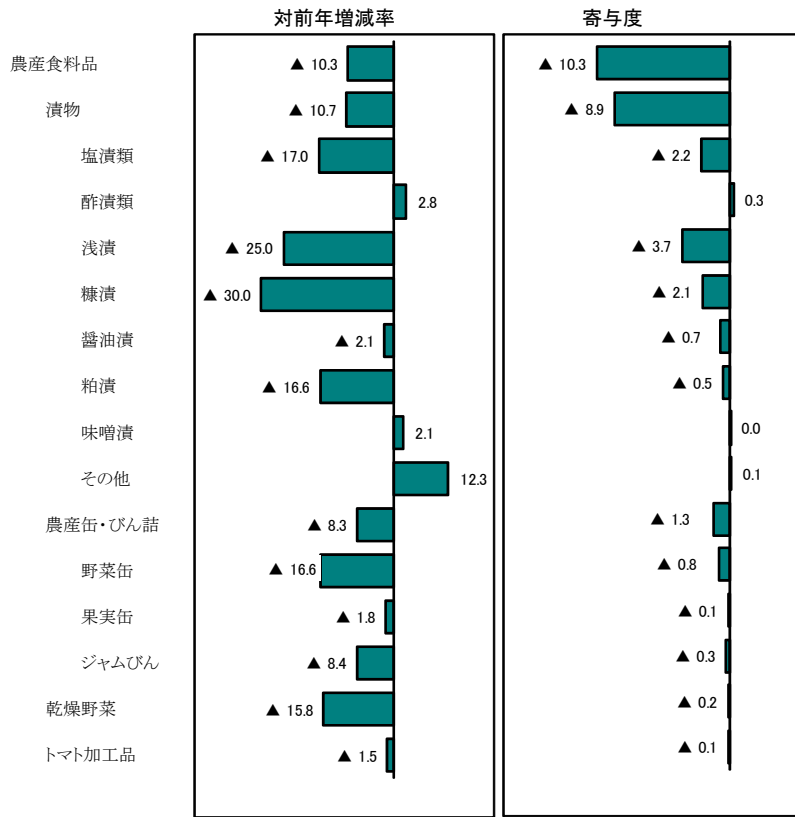


表 2-6 農産食料品の品目別生産指数の推移

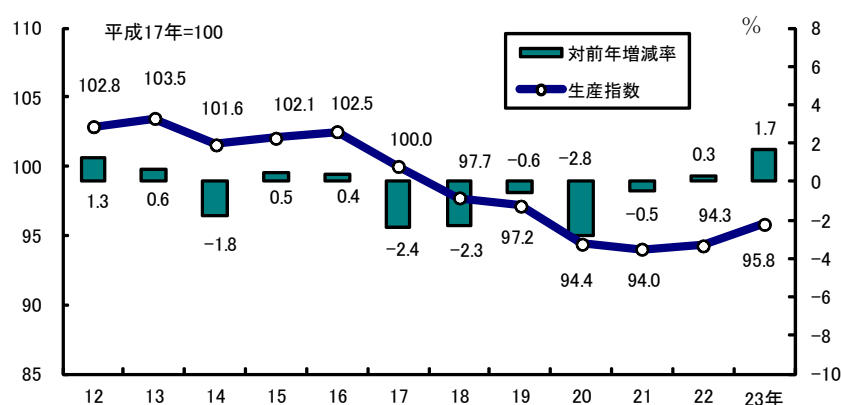
品 目	年 次 ウェイト (17年)	指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 23/22年
		17年	20年	21年	22年	23年	17年	20年	21年	22年	23年	
農産食料品	285.1	100.0	89.3	85.8	83.4	74.7	▲ 4.1	▲ 10.0	▲ 4.0	▲ 2.8	▲ 10.3	▲ 10.3
漬物	222.1	100.0	97.7	93.5	89.7	80.2	▲ 5.6	▲ 0.7	▲ 4.2	▲ 4.1	▲ 10.7	▲ 8.9
塩漬類	29.5	100.0	101.1	102.2	103.8	86.1	▲ 11.1	▲ 3.8	1.0	1.6	▲ 17.0	▲ 2.2
酢漬類	21.5	100.0	106.1	105.1	104.7	107.6	▲ 11.0	0.5	▲ 0.9	▲ 0.4	2.8	0.3
浅漬	34.0	100.0	104.3	104.4	104.1	78.1	0.7	▲ 1.6	0.1	▲ 0.3	▲ 25.0	▲ 3.7
糠漬	16.8	100.0	115.8	112.8	101.5	71.1	▲ 1.2	5.0	▲ 2.6	▲ 10.0	▲ 30.0	▲ 2.1
醤油漬	106.4	100.0	90.9	83.7	76.9	75.3	▲ 6.5	▲ 0.4	▲ 7.9	▲ 8.1	▲ 2.1	▲ 0.7
粕漬	8.6	100.0	93.2	85.8	91.3	76.1	6.9	1.7	▲ 7.9	6.4	▲ 16.6	▲ 0.5
味噌漬	1.8	100.0	94.9	92.6	91.1	93.0	▲ 11.1	▲ 4.7	▲ 2.4	▲ 1.7	2.1	0.0
その他	3.4	100.0	84.0	70.4	66.6	74.8	3.9	▲ 13.4	▲ 16.1	▲ 5.5	12.3	0.1
農産缶・びん詰	37.8	100.0	93.7	91.0	95.4	87.5	▲ 1.1	▲ 7.9	▲ 2.9	4.8	▲ 8.3	▲ 1.3
野菜缶	13.7	100.0	101.8	90.6	88.5	73.8	▲ 3.0	▲ 18.1	▲ 11.0	▲ 2.4	▲ 16.6	▲ 0.8
果実缶	14.6	100.0	91.6	92.7	107.4	105.5	1.1	1.7	1.2	15.9	▲ 1.8	▲ 0.1
ジャムびん	9.5	100.0	85.2	89.0	86.8	79.5	▲ 0.4	▲ 2.2	4.4	▲ 2.5	▲ 8.4	▲ 0.3
乾燥野菜	2.4	100.0	98.0	101.4	97.7	82.3	▲ 10.4	1.3	3.4	▲ 3.6	▲ 15.8	▲ 0.2
トマト加工品	22.8	100.0	105.3	102.3	103.7	102.2	▲ 2.0	1.4	▲ 2.9	1.4	▲ 1.5	▲ 0.1

4 製穀粉・同加工品

平成 23 年の製穀粉・同加工品の生産指数（平成 17 年=100）は 95.8 で、対前年比 1.7 % とわずかに上昇した。特に、めん類の上昇が寄与している。近年の製穀粉・同加工品の推移についてみると、前年並みと低下を繰り返しており、総じて低下傾向にあったが、23 年は増加に転じている。

品目別にみると、製穀粉がやや、めん類がわずかに上昇した。一方、パン粉はわずかに低下した。また、パン類は前年並みとなった。

図2-13 製穀粉・同加工品の生産指数の推移



製穀粉はやや増加

製穀粉の生産量は 46 万 7 千トンで、対前年比 5.3 % とやや増加した。プレミックスが ▲ 1.3 % 減少したものの、米穀粉が 14.0 % とかなり大きく増加したことが寄与している。

めん類はわずかに増加、生めん類のみ減少

めん類の生産量は 127 万 7 千トンで対前年比 2.5 % とわずかに上昇した。内訳についてみると、生めん類の生産量は 54 万 8 千トンで対前年比 ▲ 1.2 % とわずかに減少した。また即席めんは 36 万 1 千トンで、対前年比 8.7 % とかなりの程度上昇した。マカロニ・スパゲティは 15 万 8 千トンで対前年比 1.5 % とわずかに増加した。乾めん類は 20 万 9 千トンで対前年比 3.2 % とやや増加した。

パン類は前年並み

パン類の生産量は 121 万 5 千トンで対前年比 0.8 % と前年並みとなった。内訳についてみると、食パンの生産量は 58 万トンで対前年比 0.7 % と前年並み、また菓子パンは 39 万 2 千トンで対前年比 4.3 % とやや増加した。学校給食パンは 2 万 8 千トンで対前年比 ▲ 5.3 % とやや減少した。

図2-14 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

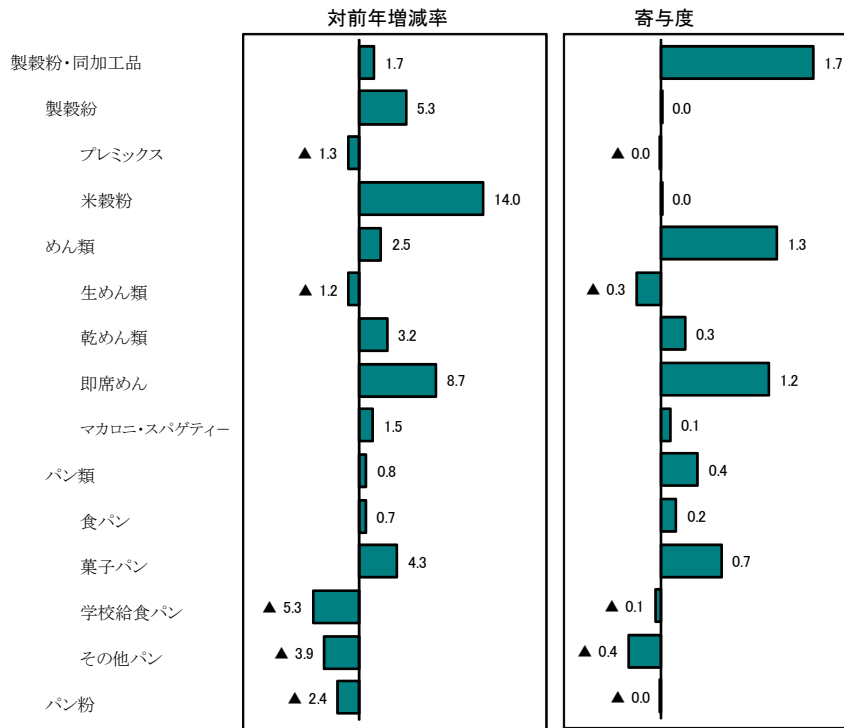


表 2-7 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の推移

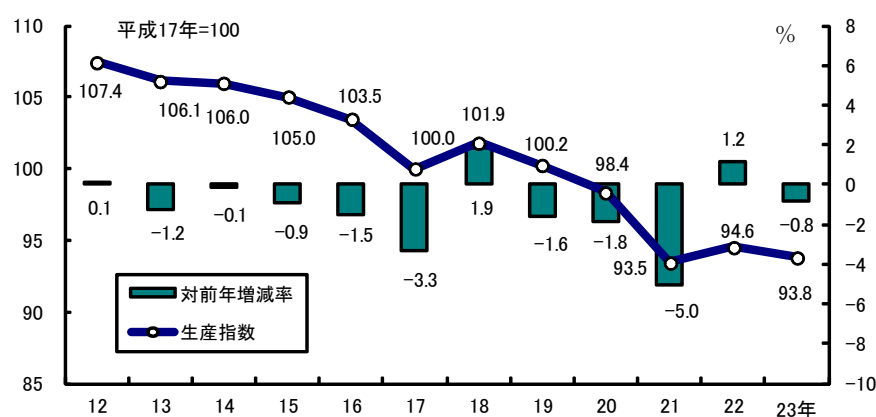
品 目	年 次 ウェイト (17年)	生産指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 23/22年
		17年	20年	21年	22年	23年	17年	20年	21年	22年	23年	
製穀粉・同加工品	593.6	100.0	94.4	94.0	94.3	95.8	▲ 2.4	▲ 2.8	▲ 0.5	0.3	1.7	1.7
製穀粉	0.1	100.0	103.4	102.5	92.8	97.7	▲ 2.3	▲ 4.1	▲ 0.9	▲ 9.4	5.3	0.0
プレミックス	0.1	100.0	103.4	102.5	106.1	104.7	▲ 1.9	1.2	▲ 0.9	3.5	▲ 1.3	▲ 0.0
米穀粉	0.0	100.0	109.3	81.2	79.5	90.7	▲ 11.7	▲ 3.6	▲ 25.7	▲ 2.1	14.0	▲ 0.0
めん類	312.2	100.0	93.4	92.5	91.1	93.4	▲ 3.8	▲ 3.2	▲ 1.0	▲ 1.5	2.5	1.3
生めん類	144.0	100.0	93.0	90.3	87.9	86.9	▲ 4.9	▲ 1.5	▲ 3.0	▲ 2.6	▲ 1.2	▲ 0.3
乾めん類	50.2	100.0	91.9	87.9	92.2	95.1	▲ 3.7	1.5	▲ 4.3	4.8	3.2	0.3
即席めん	81.2	100.0	90.9	97.2	93.4	101.6	▲ 3.6	▲ 8.6	7.0	▲ 3.9	8.7	1.2
マカロニ・スパゲティ	36.7	100.0	102.5	96.8	97.0	98.5	2.8	▲ 3.0	▲ 5.5	0.1	1.5	0.1
パン類	281.3	100.0	95.6	95.6	97.8	98.6	▲ 0.7	▲ 2.5	0.1	2.2	0.8	0.4
食パン	137.3	100.0	95.5	95.2	95.8	96.5	▲ 1.7	0.4	▲ 0.3	0.6	0.7	0.2
菓子パン	85.0	100.0	96.4	96.0	100.9	105.2	▲ 0.7	▲ 6.6	▲ 0.4	5.1	4.3	0.7
学校給食パン	8.1	100.0	90.3	83.3	84.2	79.8	▲ 1.8	▲ 1.9	▲ 7.8	1.1	▲ 5.3	▲ 0.1
その他パン	51.0	100.0	95.4	98.2	100.3	96.3	1.2	▲ 2.8	3.0	2.1	▲ 3.9	▲ 0.4
パン粉	0.0	100.0	95.6	93.9	95.3	93.1	▲ 1.8	3.2	▲ 1.8	1.5	▲ 2.4	▲ 0.0

5 食用油・同加工品

平成 23 年の食用油・同加工品の生産指数（平成 17 年=100）は 93.8 で、対前年比▲ 0.8 %と前年並みとなった。特に、植物油脂の低下が全体を押し下げている。近年の食用油・同加工品の推移についてみると、平成 17 年以降、19 年には横這いで推移したが 20 年以降ダウントレンドに入り、21 年は前年を大きく下回り、22 年には増加に転じたが、23 年は再び低下している。

品目別にみると、植物油脂はわずかに低下し、一方、加工油脂はわずかに上昇した。

図2-15 食用油・同加工品の生産指数の推移



植物油脂はわずかに減少、加工油脂はわずかに増加

植物油脂の生産量は 163 万 5 千トンで対前年比▲ 1.3 %とわずかに減少した。加工油脂の生産量は 49 万 8 千トンで対前年比 1.0 %とわずかに増加した。加工油脂について内訳をみると、マーガリンは 15 万 9 千トンで対前年比▲ 0.0 %と前年並みであったものの、ショートニングの生産量は 20 万 2 千トンで対前年比▲ 1.0 %とわずかに減少した。また、食用精製加工油脂は 3 万 5 千トンで、対前年比 21.1 %と大幅に増加した。

図2-16 食用油・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

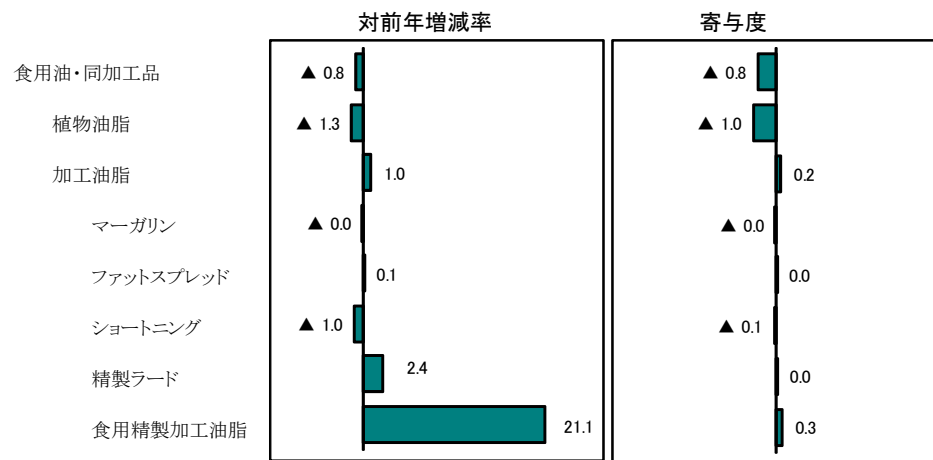


表 2-8 食用油・同加工品の品目別生産指数の推移

品 目	年 次 (17年)	ウェイト (17年)	生産指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 23/22年
			17年	20年	21年	22年	23年	17年	20年	21年	22年	23年	
食用油・同加工品		520.4	100.0	98.4	93.5	94.6	93.8	▲ 3.3	▲ 1.8	▲ 5.0	1.2	▲ 0.8	▲ 0.8
植物油脂		392.4	100.0	99.2	93.2	96.4	95.1	▲ 4.2	▲ 1.4	▲ 6.1	3.5	▲ 1.3	▲ 1.0
加工油脂		128.0	100.0	95.8	94.3	88.9	89.8	▲ 1.2	▲ 3.0	▲ 1.5	▲ 5.7	1.0	0.2
マーガリン		37.9	100.0	96.7	96.0	95.9	95.9	▲ 3.0	▲ 1.2	▲ 0.7	▲ 0.1	▲ 0.0	▲ 0.0
ファットスプレッド		18.5	100.0	95.8	95.1	95.0	95.0	2.6	▲ 1.3	▲ 0.8	▲ 0.1	0.1	0.0
ショートニング		47.0	100.0	102.0	100.7	99.3	98.3	▲ 1.2	▲ 1.9	▲ 1.2	▲ 1.4	▲ 1.0	▲ 0.1
精製ラード		13.3	100.0	92.4	90.5	49.8	51.0	▲ 2.8	▲ 1.5	▲ 2.0	▲ 45.0	2.4	0.0
食用精製加工油脂		11.4	100.0	71.2	65.3	58.4	70.7	0.0	▲ 20.1	▲ 8.2	▲ 10.6	21.1	0.3

6 砂糖

平成 23 年の砂糖の生産指数（平成 17 年=100、一部推定を含む暫定値）は 90.7 で、対前年比▲ 5.2 %とやや低下した。特に、上白の低下が全体を押し上げている。近年の砂糖の推移についてみると、平成 17 年以降低下傾向で推移している。

品目別にみると、氷糖が大幅に上昇した。一方、中白が大幅に低下し、中双がかなり大きく低下し、白双、上白、三温はかなりの程度低下し、グラニュー糖、角糖がやや低下し、液糖がわずかに低下した。

図2-17 砂糖の生産指数の推移

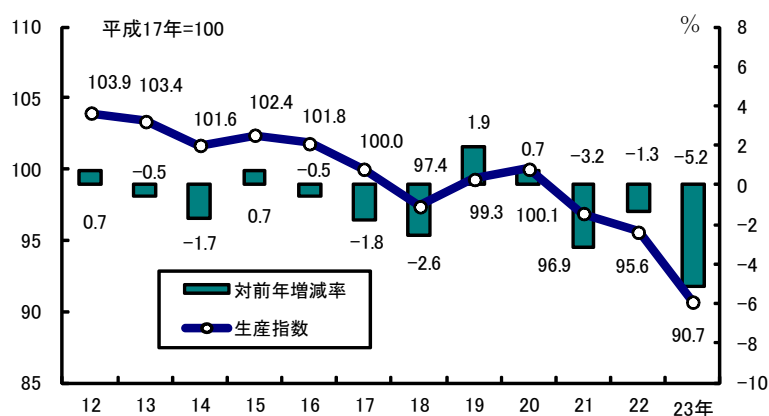


図 2-18 砂糖の品目別生産指数の推移

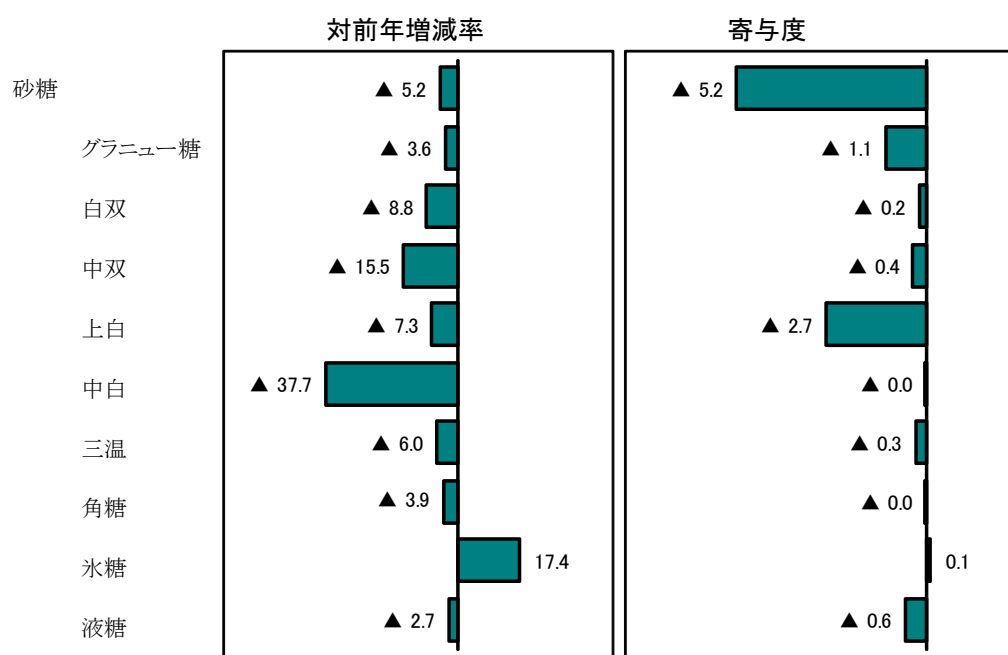


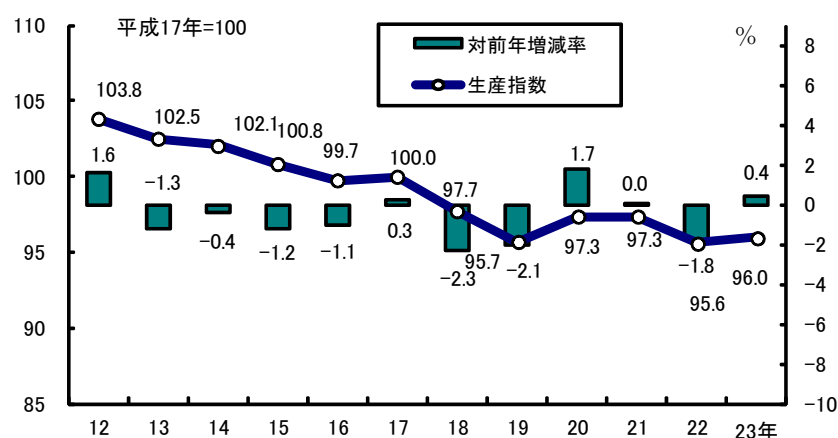
表2-9 砂糖の品目別生産指数の推移

年次 品目	ウェイト (17年)	生産指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 23/22年
		17年	20年	21年	22年	23年	17年	20年	21年	22年	23年	
砂糖	417.9	100.0	100.1	96.9	95.6	90.7	▲ 1.8	0.7	▲ 3.2	▲ 1.3	▲ 5.2	▲ 5.2
グラニュー糖	127.2	100.0	101.0	95.7	95.1	91.7	▲ 3.0	0.5	▲ 5.2	▲ 0.6	▲ 3.6	▲ 1.1
白双	10.2	100.0	97.1	90.5	87.6	79.9	▲ 0.9	1.5	▲ 6.7	▲ 3.2	▲ 8.8	▲ 0.2
中双	10.4	100.0	94.3	90.4	88.1	74.5	▲ 4.6	▲ 3.1	▲ 4.1	▲ 2.6	▲ 15.5	▲ 0.4
上白	162.2	100.0	99.1	95.6	92.0	85.3	▲ 1.4	1.2	▲ 3.6	▲ 3.7	▲ 7.3	▲ 2.7
中白	0.1	100.0	115.5	87.3	85.8	53.4	▲ 0.2	8.2	▲ 24.4	▲ 1.7	▲ 37.7	▲ 0.0
三温	23.8	100.0	96.0	88.1	85.6	80.5	0.7	0.0	▲ 8.2	▲ 2.8	▲ 6.0	▲ 0.3
角糖	1.7	100.0	75.5	61.5	66.8	64.2	▲ 9.4	1.3	▲ 18.5	8.7	▲ 3.9	▲ 0.0
冰糖	3.0	100.0	88.7	109.0	88.8	104.3	▲ 5.7	2.4	22.9	▲ 18.5	17.4	0.1
液糖	79.2	100.0	103.7	106.2	109.6	106.6	▲ 0.7	0.8	2.4	3.1	▲ 2.7	▲ 0.6

7 調味料

平成 23 年の調味料の生産指数（平成 17 年=100、暫定値）は 96.0 で、対前年比 0.4 %と前年並みであった。品目別にみると、マヨネーズがわずかに上昇した。一方、みそ、しょうゆがわずかに低下し、ドレッシングは前年並みとなった。近年の調味料の推移についてみると、平成 21 年は原料価格の高騰の影響から、17 年に比べ大きく低下した。しかしながら 22 年は増加に転じ、23 年も同水準で推移している。

図2-19 調味料の生産指数の推移



しょうゆ、みそともにわずかに減少

しょうゆの生産量は 82 万 6 千 kl で対前年比▲ 2.7 %とわずかに減少した。また、みそも 45 万 6 千トンで対前年比▲ 1.3 %とわずかに減少した。

マヨネーズはわずかに増加、ドレッシングは前年並み

マヨネーズの生産量は 20 万 7 千トンで、対前年比 1.4 %とわずかに増加した。ドレッシングの生産量は 18 万 4 千トンで、対前年比▲ 0.7 %と前年並みとなった。

図2-20 調味料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

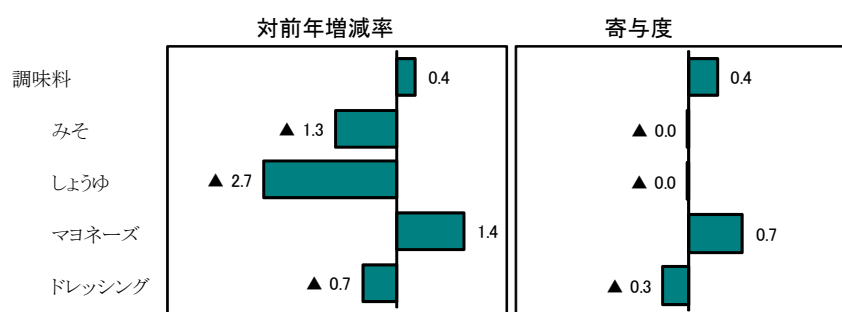


表 2-10 調味料の品目別生産指数の推移

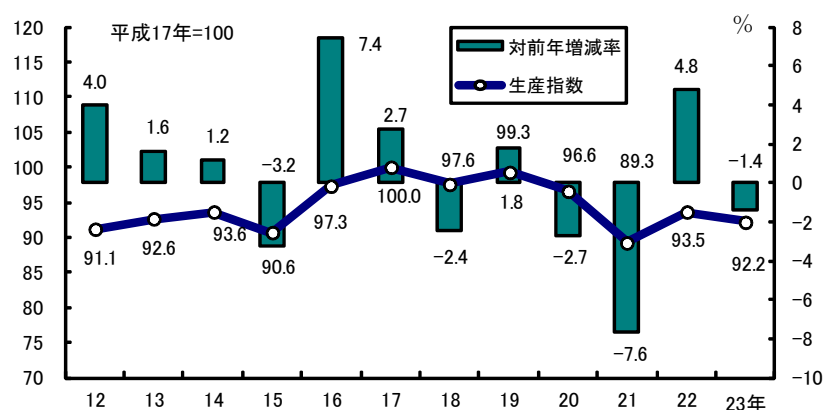
品 目	年 次 ウエイト (17年)	生産指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度
		17年	20年	21年	22年	23年	17年	20年	21年	22年	23年	23/22年
調味料	93.4	100.0	97.3	97.3	95.6	96.0	0.3	1.7	0.0	▲ 1.8	0.4	0.4
みそ	0.1	100.0	93.0	91.7	92.7	91.6	▲ 2.0	▲ 4.5	▲ 1.4	1.1	▲ 1.3	▲ 0.0
しょうゆ	0.2	100.0	96.0	92.0	90.0	87.6	▲ 1.2	▲ 2.1	▲ 4.1	▲ 2.2	▲ 2.7	▲ 0.0
マヨネーズ	51.6	100.0	92.5	92.6	90.5	91.7	▲ 0.1	▲ 3.6	0.1	▲ 2.3	1.4	0.7
ドレッシング	41.5	100.0	103.3	103.3	102.0	101.3	5.0	38.7	▲ 0.0	▲ 1.2	▲ 0.7	▲ 0.3

8 飲料

平成 23 年の飲料の生産指数（平成 17 年=100、暫定値）は 92.2 で、対前年比▲ 1.4 %とわずかに減少した。特に、果実飲料の減少が全体を押し下げている。

品目別にみるとトマト飲料がかなりの程度上昇し、炭酸飲料はわずかに上昇した。また、コーヒー・茶系飲料は前年並みとなった。一方、果実飲料が大幅に低下した。近年の飲料の推移についてみると、20 年から 21 年にかけて落ち込んでいたが、22 年に回復の兆しが見受けられたものの、23 年に再び減少に転じている。

図2-21 飲料の生産指数の推移



炭酸飲料はわずかに増加、果実飲料は大幅減少

炭酸飲料の生産量は 252 万 8 千 kl で対前年比 1.7 %とわずかに増加した。一方、果実飲料の生産量は 88 万 6 千 kl で対前年比▲ 21.9 %と大幅に減少した。

コーヒー・茶系飲料は前年並み

コーヒー・茶系飲料の生産量は 861 万 1 千 kl で対前年比 0.4 %と前年並みとなった。

トマト飲料はかなりの程度増加

トマト飲料の生産量は 6 万 5 千 kl で対前年比 10.0 %とかなりの程度増加した。

図2-22 飲料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

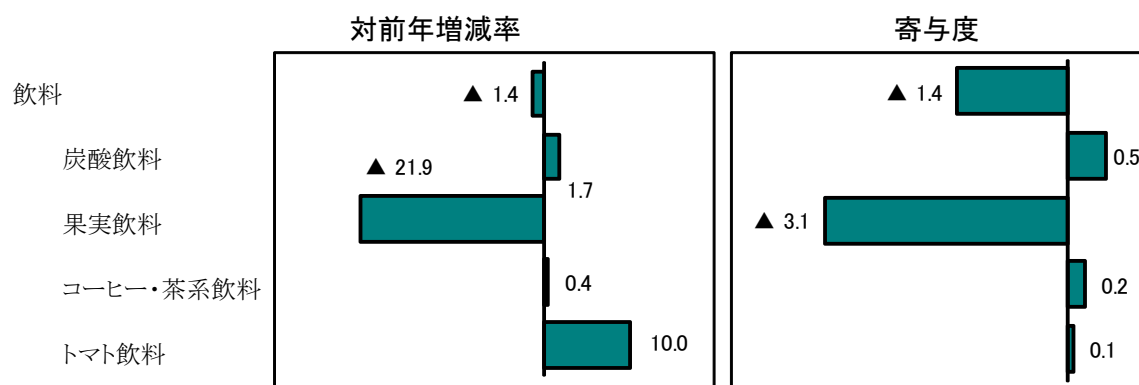


表 2-11 飲料の品目別生産指数の推移

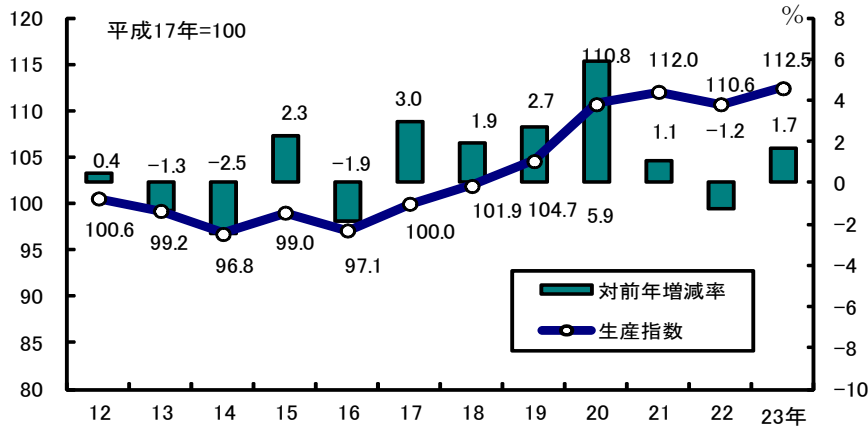
品 目	年 次 ウェイト (17年)	生産指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 23/22年
		17年	20年	21年	22年	23年	17年	20年	21年	22年	23年	
飲料	1,975.8	100.0	96.6	89.3	93.5	92.2	2.7	▲ 2.7	▲ 7.6	4.8	▲ 1.4	▲ 1.4
炭酸飲料	610.3	100.0	101.8	88.6	90.9	92.5	▲ 0.7	▲ 3.3	▲ 13.0	2.7	1.7	0.5
果実飲料	415.7	100.0	83.1	75.9	62.3	48.7	3.5	▲ 6.1	▲ 8.6	▲ 18.0	▲ 21.9	▲ 3.1
コーヒー・茶系飲料	936.0	100.0	99.7	95.9	101.1	101.5	5.0	▲ 0.8	▲ 3.8	5.4	0.4	0.2
トマト飲料	13.8	100.0	68.1	67.5	99.8	109.8	▲ 4.6	▲ 15.1	▲ 0.8	47.7	10.0	0.1

9 菓子

平成23年の菓子の生産指数（平成17年=100）は112.5で、対前年比1.7%とわずかに増加した。品目別にみると、ビスケットは前年並みとなり、米菓はわずかに増加した。

図2-23 菓子の生産指数の推移

図2-23 菓子の生産指数の推移

ビスケットは前年並み、米菓はわずかに増加

ビスケットの生産量は24万3千トンで対前年比0.5%と前年並みとなった。米菓の生産量は22万8千トンで対前年比1.9%とわずかに増加した。

図2-24 菓子の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

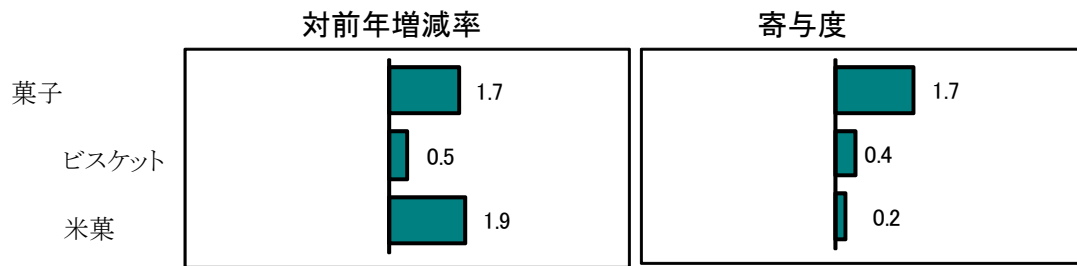


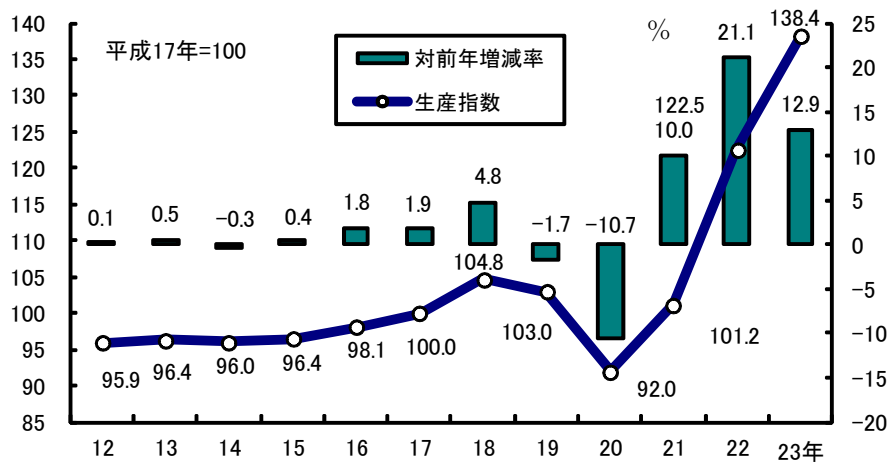
表 1-12 菓子の品目別生産指数の推移

年次 品目	ウェイト (17年)	生産指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 23/22年
		17年	20年	21年	22年	23年	17年	20年	21年	22年	23年	
菓子	900.1	100.0	110.8	112.0	110.6	112.5	3.0	5.9	1.1	▲ 1.2	1.7	1.7
ビスケット	784.0	100.0	111.7	113.4	116.3	116.9	0.0	6.5	1.5	2.6	0.5	0.4
米菓	116.0	100.0	104.5	102.5	104.9	106.9	5.7	1.5	▲ 1.9	2.3	1.9	0.2

10 調理食品

平成23年の調理食品の生産指数（平成17年=100、暫定値）は138.4で、対前年比12.9%とかなり大きく増加した。特に加工米飯の増加が全体の増加に寄与している。近年の調理食品の推移についてみると、20年まで減少傾向で推移したが、20年以降増加に転じ、しかも10%を超える伸び率で推移している。23年の増加については、東日本大震災以降の備蓄需要が要因とみられる。

図2-25 調理食品の生産指数の推移



加工米飯はかなり大きく増加

加工米飯の生産量は26万4千トンで対前年比15.8%とかなり大きく増加した。

カレーは大幅に増加、その他はやや減少

調理缶・レトルトの生産量は40万2千トンで対前年比2.6%とわずかに増加した。内訳についてみると、カレーの生産量は16万トンで対前年比16.9%と大幅に増加し、一方、その他の生産量は24万1千トンで対前年比▲5.0%とやや減少した。

図2-26 調理食品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

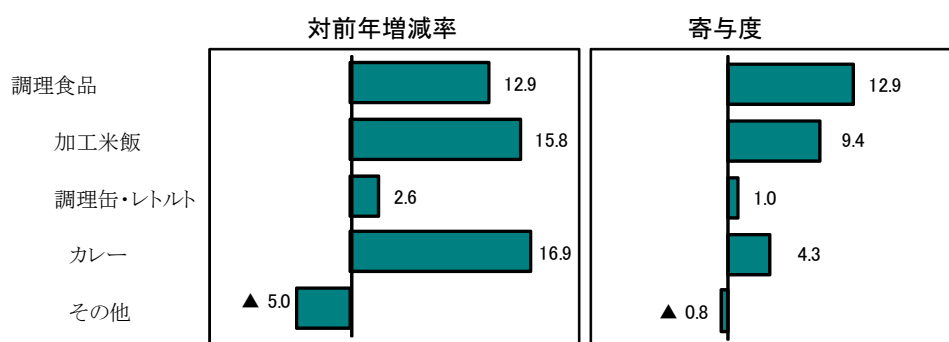


表 2-13 調理食品の品目別生産指数の推移

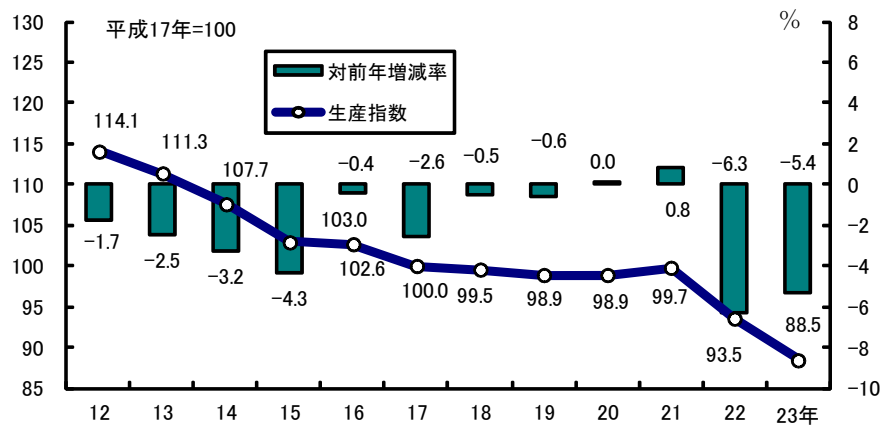
年次 品目	ウェイト (17年)	生産指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 23/22年
		17年	20年	21年	22年	23年	17年	20年	21年	22年	23年	
調理食品	583.1	100.0	92.0	101.2	122.5	138.4	1.9	▲ 10.7	10.0	21.1	12.9	12.9
加工米飯	327.1	100.0	83.6	84.8	130.1	150.7	▲ 18.9	▲ 17.7	1.5	53.4	15.8	12.9
調理缶・レトルト	256.0	100.0	102.8	122.1	107.4	110.3	3.6	▲ 2.0	18.7	▲ 12.0	2.6	1.0
カレー	148.7	100.0	102.9	137.5	121.2	141.6	▲ 3.3	▲ 2.1	33.7	▲ 11.9	16.9	4.3
その他	107.3	100.0	102.8	100.7	101.2	96.1	6.8	▲ 1.9	▲ 2.0	0.5	▲ 5.0	▲ 0.8

1.1 酒類

平成23年の酒類の生産指数（平成17年=100、一部推定値を含む）は88.5で、対前年比▲5.4%とやや低下した。特に、ビール、雑酒（発泡酒を含む）の低下が全体を押し下げている。

品目別にみると、果実酒類がやや上昇し、スピリッツ類、リキュール類がわずかに上昇した。一方、清酒、合成清酒、みりん、ビール、ウイスキー、雑酒（発泡酒を含む）がかなりの程度低下し、焼酎、ブランデーがやや低下した。特に、東日本大震災による飲酒の自粛が要因とみられる。

図2-27 酒類の生産指数の推移



ビール、雑酒ともかなりの程度の減少

ビールの生産量は248万klで、対前年比▲7.5%とかなりの程度減少した。ウイスキーなど他のカテゴリーへの消費の移行や、消費者の低価格志向から全体ではノンアルコールのビール風味商品など低価格商品に押され、23年も前年を下回った。

雑酒（発泡酒を含む）の生産量は142万6千klで対前年比▲9.6%とかなりの程度減少した。低価格志向から発泡酒についても新ジャンルに押され、消費が縮小している。

焼酎はやや減少、ウイスキーはかなりの程度減少

焼酎の生産量は78万7千klで、対前年比▲5.7%とやや減少した。ウイスキーの生産量は6万9千klで、対前年比▲7.8%とかなりの程度減少した。ウイスキーは近年低迷していたが、21年～22年頃にかけてブームとなったハイボールも下火になり、23年は前年を下回った。

スピリッツ類、リキュール類ともにわずかに増加

スピリッツ類の生産量は26万9千klで対前年比2.3%とわずかに増加した。また、リキュール類の生産量は162万7千klで対前年比2.1%とわずかに増加した。近年は、ビールに

代替する新ジャンルの開発によりスピリッツ類、リキュール類ともに前年を上回って推移していたが、その勢いは下火になりつつある。

図2-28 酒類の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

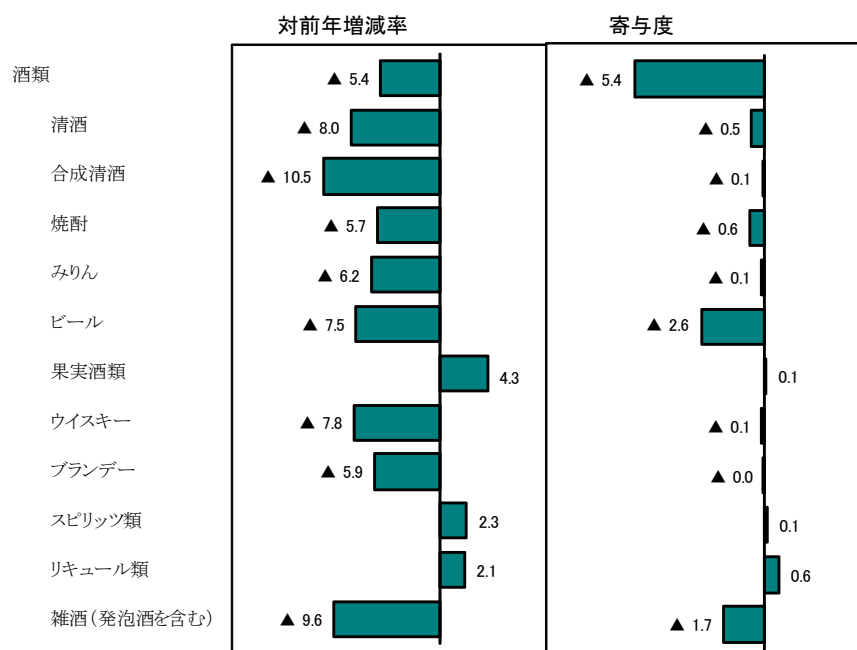


表 2-14 酒類の品目別生産指数の推移

品 目	年 次 ウェイト (17年)	生産指数 (17年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 23/22年
		17年	20年	21年	22年	23年	17年	20年	21年	22年	23年	
酒類	1,576.1	100.0	98.9	99.7	93.5	88.5	▲ 2.6	0.0	0.8	▲ 6.3	▲ 5.4	▲ 5.4
清酒	118.4	100.0	89.3	85.9	80.4	73.9	▲ 3.3	▲ 2.6	▲ 3.8	▲ 6.5	▲ 8.0	▲ 0.5
合成清酒	14.6	100.0	79.6	75.5	70.0	62.6	1.0	▲ 7.8	▲ 5.2	▲ 7.3	▲ 10.5	▲ 0.1
焼酎	171.0	100.0	98.5	98.7	94.1	88.7	1.1	▲ 0.4	0.2	▲ 4.7	▲ 5.7	▲ 0.6
みりん	24.9	100.0	101.2	98.9	96.4	90.4	2.3	▲ 2.3	▲ 2.3	▲ 2.6	▲ 6.2	▲ 0.1
ビール	616.7	100.0	90.7	84.8	81.8	75.6	▲ 8.0	▲ 6.6	▲ 6.5	▲ 3.6	▲ 7.5	▲ 2.6
果実酒類	22.9	100.0	87.4	99.4	88.9	92.8	16.6	0.6	13.7	▲ 10.5	4.3	0.1
ウイスキー	15.6	100.0	88.7	100.7	118.5	109.3	▲ 1.8	0.1	13.5	17.7	▲ 7.8	▲ 0.1
ブランデー	1.8	100.0	79.1	73.7	69.2	65.1	▲ 9.5	▲ 2.3	▲ 6.8	▲ 6.1	▲ 5.9	▲ 0.0
スピリッツ類	16.1	100.0	272.0	347.3	405.8	415.2	▲ 0.1	74.6	27.7	16.9	2.3	0.1
リキュール類	171.4	100.0	158.5	203.2	231.5	236.4	9.1	20.9	28.2	13.9	2.1	0.6
雑酒(発泡酒を含む)	402.6	100.0	83.9	74.2	65.2	58.9	2.3	▲ 5.7	▲ 11.5	▲ 12.2	▲ 9.6	▲ 1.7